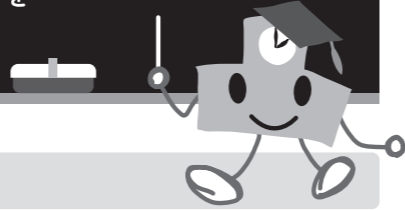


小学校の事例 北区 太平小学校

創成川で、水や川に棲む生物を学ぶ。

身近によく知られている創成川。総合的な学習の時間の約3割を使用して、創成川について学ぶ。外部講師を招いて、より理解しやすく、1つの学習テーマをいろいろな視点から考えさせる取組。



はじめに 身近なところで水の観察を

本校の児童にとって、創成川はなじみのある場所である。春、遠足に行く際には、川の近くを通り、夏には保護者と一緒にアメリカザリガニを捕まえに行ったりもする。そんな身近な環境を生かすこと、また、社会科で水についての学習があることから、創成川の観察を行うことになった。



創成川

内容 本当の創成川を知ろう

4年生が総合的な学習の時間に「創成川再発見」と題し、創成川の水や、そこに棲む生物の観察を通して、地域の自然を見つめ直している。川へは年2回、4年生全員で歩いて行っている。

川での学習は、道の開発局の方から指導を受け進められた。まず、川のかたちや川へ近づくときの注意点について、パネルを使って説明を受ける。実際に開発局の方が川に入り、その深さを見せてくれた。胸のあたりまで水が迫る場所があり、児童は驚きの声をあげていた。児童が川に入って観察することもできるが、本校では安全面を考えて児童を川へ入らせなかった。その後、グループに分かれてパックテストや透視度（水のにごり具合）を測って水質を調べたり、川に住む魚の観察や、魚と川の水との関わり、川に来る鳥の特徴などを学んだ。



創成川の観察のようす①

パックテストとは、誰でも扱うことのできる簡単な水質分析器具。調べたい水を吸い込ませると、器具に入っている薬品と反応して水の色が変わる。その色から水質を読み取るというもの。

その後、一人一人テーマを決めて川の学習で学んだことをまとめ、学年ごとに発表したり掲示し、理解を深めた。

川での学習の際は、安全面をしっかりと確保することが大切。特に危険な場所でも、屋外で学習をする際は必ず安全を確認しなくてはならない。

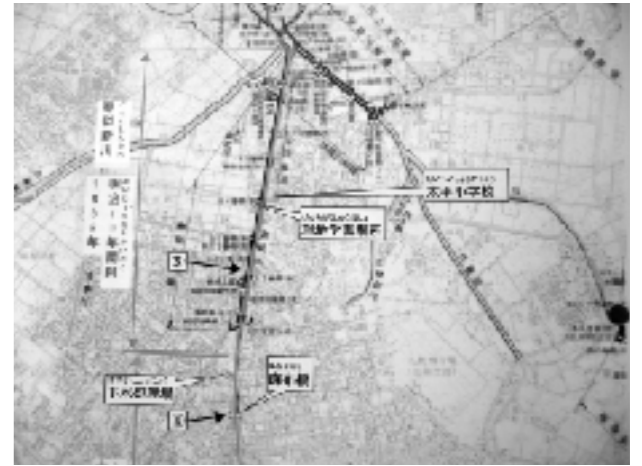


創成川の観察のようす②

今後 1つのテーマから関連づけて学習を進める

楽しみながら環境を学ぶことで、川の周りの自然や生物への関心が高まっている。来年以降も、開発局による川の学習会を取り入れていきたい。

環境学習は、テーマを1つ決めて、そこから枝分かれするように関連づけて進めていくと、児童が理解しやすいと考えている。例えば、「電気」をテーマに置くと、電気、節電、エアコンの温度調節、二酸化炭素の排出量の減少、温暖化の防止とつながり、別のルートでは、電気、新エネルギー、太陽光発電ソーラーカー、エコカー、バイオ燃料と関連づけていくことができる。また、地域の歴史に目を向けることによって郷土に愛着をもち、環境を守る心が育つことも考えられる。



学校付近の地図と歴史

広げよう
つなげよう
環境学習の輪

実施校から
メッセージ

平成24年度、本校に太陽光パネルが設置される予定です。学校の近くには電力会社があり、屋上からは石狩市にある風車が見えます。身近に環境学習の教材にできそうなものがたくさんあるので、今後はこれら地域の特性をもっと活用して、環境学習を進めていきたいと考えています。